

# ホワイトハウス・インサイダー：トランプは、ラスベガスの背後を暴く予定

大統領は国民に対するなま演説で、この大陰謀を明らかにする計画

【訳者注】もしこれが実現すれば、米史上初めて、大統領による自国政府への宣戦布告になるはずである。ただ実現すればの話で、トランプはその前に暗殺されるかもしれず、何か、もっとひどいことが起こるかもしれない。しかし、このインサイダーのような人が、大胆にこのような発表をするということは、勝算があるからであろう。（参考：<http://www.dcsociety.org/2012/info2012/170221.pdf>）我々から見ても、トランプがいつまでも敵だけに囲まれているとは思えない。“アノニマス”が暗躍していることは、だいぶ前から知られていた。ここに書かれているように、トランプは、アメリカ国民が少なくともブッシュ・シニア以来、知らずに、どんな国に住んでいたのかを、誰にもわかり易く説明するであろう。成功を祈るばかりだが、どんな展開になるか不安である。内戦になるとしても、そこを避けて通ることはできない。

日本のメディアにお願いします。これが実現した場合、アメリカの新聞通りに、「悪いのはトランプだ、混乱は彼の責任だ」などと馬鹿なことを言わないでいただきたい。それではあまりにも情けないだけでなく、日本が、人類の敵の仲間入りを世界に宣言することになる。

Jay Greenberg

October 7, 2017, [www.neon-nettle.com](http://www.neon-nettle.com)



あるホワイトハウスの警告者が、ドナルド・トランプは、やがて国民に対するなまの演説を行い、最近のラスベガス銃撃事件の背後の真実を暴露する計画であることを、明らかにした。

このインサイダーの明言したところによると、大統領は過去数週前から、なまの記者会見を行う計画を立てており、その中で、9・11を含む大きな陰謀や、ハリウッドのペドフィリアについての詳細を、明らかにするだろうという。

<http://www.neon-nettle.com/tags/911> <http://www.neon-nettle.com/tags/hollywood>

しかしこの計画は、アメリカと周辺諸国を襲った一連の自然災害による最近の荒廃のために、中断されていた。<http://www.neon-nettle.com/tags/hurricane>

このリークのおそらく最もショッキングな部分は、最近のラスベガスの殺戮が、実はニセ旗陰謀であり、彼が暴こうと計画している、まさにその者たちによって計画され、社会の注意をそらすために考え出された、トランプ演説を妨げようとするものだった、という所である。

<http://www.neon-nettle.com/news/2871-las-vegas-false-flag-video-proves-team-of-shooters-behind-attacks> <http://www.neon-nettle.com/tags/false-flag>

このニュースは、最近のトランプの行ったコメントで、彼がトップの軍指導者たちとの会合を、「嵐の前の静けさ」と呼んだこととも一致する。

<http://www.neon-nettle.com/news/2888-trump-calls-emergency-meeting-with-military-leaders-the-calm-before-the-storm->

<http://www.neon-nettle.com/news/2888-trump-calls-emergency-meeting-with-military-leaders-the-calm-before-the-storm->

彼の言う嵐とは、これらの暴露のことだろうか？

このリークは、**MegaAnon** というハンドルネームを使う、ある知られたホワイトハウスの警告者による、匿名のメッセージ・ボード **4chan** に載ったものである。

こうしたボードは、しばしば、ハッキング・グループ「アノニマス」によって、他のインサイド・リーカーとともに、驚嘆すべき情報を民衆に明かすために使われている。

このインサイダーは、これまでの暴露情報に詳しい、ベテランの **4chan** ユーザーによって、確認されている。

このリーク内容の主要点は、次のようなものである：――

ケリー将軍（大統領首席補佐官）の電話が盗まれた（ハックされた）という噂は、罪になる活動の記録を、その電話から消そうとする意図をもっている。

ある政府高官が、銃撃のあと、マンダレー（・ホテル）に連れていかれた。これはおそらく、ある空港での発砲のうわさに関係がある（?）。

ラスベガス銃撃よりもっとひどい攻撃が回避された。

トランプは記者会見で、あの銃撃事件の動機の一つは、彼が連邦政府の悪役たちを暴露するのを妨げることだった、と明言すると思われる（?）。

トランプが、情報の極秘を解く計画をしている項目が 3 つある。彼のその計画はすでに 2 度妨げられた。その一つは、続くハリケーンと、その後のトランプを批判する新聞記事のおかげである。

ワシントンの FBI は、パドックの、テロリストとのつながりを指摘する、疑わしい情報を利用することによって、ラスベガス銃撃事件を裁断したことになっている。この情報はソースがアメリカではなく、跡付けることも、確証することもできない。

パドックの名前は、この裁断が伝えられてから後に発表された。ISIS は、彼の名前があがるや否や、パドックとのつながりを主張した。FBI は、ISIS がパドックを自分たちの仲間と主張することを期待し、これが、彼らのテロリスト物語を支持することを希望した（?）。

FBI とラスベガス首都警察は、共同して、情報の拡散と物語のコントロールに必死に頑張った。FBI は、元々のソースをコントロールできないことを悟り、代わりに、これらのソースへのアクセス（グーグル、フェイスブック、プロバイダー）を下流に向かって検閲している。彼らは公的物語を発表する前に、最後の物語がつじつまの合うものになるように、インターネット探偵が、すべての証拠を積み上げるまで待っている。

裁断を変えたにもかかわらず、FBI は、ラスベガス首都警察に、リークや、やむを得ない、不完全なメディアの暴露も含めて、調査の失敗の責任を取らせようとしている。

トランプの 3 つの暴露の 1 つは、Harvey Weinstein よりも重要なある人物を追求す

る、ハリウッドのペドフィリアに関係することになるだろう。

2つ目の暴露は、両政党のリーダーの、選挙時の詐欺行為に関するもので、はっきりと民主党全国委員会、オバマ政権、クリントン選挙運動員を名指している。

トランプが明らかにする証拠は、簡潔で、反論できず、この世代のあらゆる大きな政治的物語の陰謀的側面に光を当てるような、包括的なものになるであろう。

トランプは、テレビのおしゃべりに影響されていない、一般大衆に理解されるように、演説の方法を注意深く選ぼうとしている。そのような演説の性格の一部として、政府の透明性というものが、少なくとも、ブッシュ・シニアのまで遡って、存在しなかったことを明らかにするであろう。

トランプの3つの暴露は、FBI、CIA、およびIRS（米内国歳入庁）に関わることになるだろう。これらの部局のすべてが“崩壊する”であろう。

[長文の、アノニマスなどによる“ボード”記事の写真版が載っているが、省略する]

ラスベガスの慄然とする攻撃をめぐる諸事件の“公的”物語は、そもそもの初めから、疑惑を引き起こした。

主流メディアは、この荒唐的惨事は、クレージーな単独銃撃犯によって起こされたもので、唯一の答えは米国憲法を変えることだと、一般大衆を説得しようと懸命になっている。

**関連資料：「ラスベガス銃撃の負傷者：私は群衆の中にいたガンマンに撃たれた」**

<http://www.nnettle.com/news/2887-las-vegas-shooting-victim-i-was-shot-by-a-gunman-in-the-crowd->

もしメディア・ニュースが、人々に出来事を忠実に伝えるものであるならば、この情報は、アメリカと世界の、あらゆるテレビで報道されるはずだが、そうになっていない。

“ニュース”とは、政治的エリートが、あるアジェンダを大衆に押し付けるために使われる、プロパガンダの道具にすぎない。

これは“問題、反応、解決”というパターンの、もう一つの完全な例である。

**問題：**“クレージーな銃所有者”が、過剰な権利を行使し、結局、恐ろしい虐殺事件を起こして何百人の人々を銃撃する。

**反応：**主流メディアが“公的物語”を発表し、大衆を怒らせ、解決を要求させる。

**解決：**“安全”の名において、アメリカ人民から権利を取り上げる。

テレビの“本当のニュース”や、グーグルのひどく検閲されたニュース記事を、一瞥しただけで、このことがすでにメディアにおいて、行われていることがわかるだろう。

この攻撃からほんの数時間後に、ヒラリー・クリントンはすでに銃器法の改善を呼びかけ、人々は「NRA（全米ライフル協会）に対して立ち上がり…こういうことが再び起こらないようにせよ」と叫んだ。

アメリカの銃器法に賛成か反対かを問わず、人々が常に大切にしなければならないのは、合衆国憲法である。

ひとたび少数政治家が、これら聖なる修正条項すべてに汚い手を付けたときには、アメリカ人民は、彼らの市民的自由に、永久に別れを告げなければならなくなる。